

金沢漆器

歴史

加賀蒔絵として有名な金沢漆器は、1630年頃、加賀藩3代藩主前田利常が美術工芸の振興に力を入れ、桃山文化を代表する高台寺蒔絵の巨匠五十嵐道甫を細工所の指導者として招き、技法を伝えたことが始まりである。以後、五十嵐家一門は、歴代藩主に仕えるとともに技術を受け継いできた。また、道甫の門人といわれる清水九兵衛や印壺



蒔絵の名工椎原市太夫が江戸から招かれ、加賀蒔絵の基礎をつくった。このように、王朝文化からの伝統を受け継ぎ、藩によって育成された金沢漆器は優美な貴族文化に武家文化が加わった特有のものである。

特色

室内調度品、茶道具などの一品制作が特徴である。指物、挽物、曲物などで造った木地素材に、下塗だけでも布着せ、漆下地など数十工程を経る本堅地塗である。上塗は無地呂色[ろいろ]磨きや花塗仕上げが主で、塗立てや金沢独特の紗の目塗など高雅な変わり塗がある。

蒔絵は平時絵・高蒔絵・研出蒔絵・肉合研出蒔絵など高度な熟練を要する繊細な技法を用い、これに螺鈿[らでん]・平文[ひょうもん]・卵殻[らんかく]などの技法も使われ加飾効果を高めている。



金沢漆器

歴史與特色

金沢漆器の歴史は始於1630年左右，加賀藩主前田利常致力於振興美術工藝，招攬了泥金畫技術的巨匠。後來，其弟子們將優雅的貴族文化和武士文化相結合，發展成金澤漆器。

金澤漆器用於傢俱、茶具等。漆器的完成是要經過數十次塗漆的工序而成。“蠟色磨”(上光)和花塗(不上光)外，還有“紗目”(布紋式花紋)都是金澤漆器的代表性技術。使用平泥金畫、高泥金畫(浮雕圖案)、螺鈿(鑲嵌貝殼)、平紋(使用細金屬箔的裝飾)、卵殼(使用卵殼的裝飾)等各種技法，提高加飾效果。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	茶道具、調度品(茶具、傢俱)
主な生産者(主要生産者)	金沢漆器商工業協同組合(金澤漆器商工業協同組合) 〒920-0918 金沢市尾山町9-13(金澤市尾山町9-13) TEL (076)263-1157 FAX (076)263-1158